

《資料館便り》

平成 27 (2015) 年

4 月号



石川町立歴史民俗資料館は、町の文化財保存と活用、町民の教育、学術及び文化の発展を目的に、昭和 49(1974) 年秋に開館しました。公的施設としては、県下のさきがけの一つです。

○「資料館便り」編集：発行 石川町立歴史民俗資料館
〒963-7845 石川町字高田 200-2 0247 (26) 3768

岡部昌生氏フロッターージュ

○「文化庁地域と共働した美術館・歴史博物館創造

活動支援事業」の一環として、福島県を舞台に「はま・なか・あいづ文化連携プロジェクト 2014」(事務局：福島県立博物館)が実施され、2月初旬、県内各地で岡部昌生氏フロッターージュによる



↑ 制作中の岡部氏 (理研扶桑第 806 工場遺構)

↑ 構想を練る岡部氏 (理研扶桑第 806 工場遺構)

制作が行われました。大熊町や南相馬市では、沿岸部等の震災

関連の場所・遺構が制作現場となりました。当町では、戦時中高田に建設され、「二号研究」の原料調

達を担った「理研扶桑第 806 工場 (ジルコン工場)」の遺構や、石川産出の「長石」等の鉱物がその対象となりました。一昨年、町教委と当館が出版した「ペグマタイトの記憶」を岡部氏がお覧になったことがきっかけでした。

三森孝則館長や当町文化財保護審議会委員の橋本悦雄氏の案内で、一層制作意欲がかきたてられたとのことで、厳寒にもかかわらず、精力的にフロッターージュが行われました。今後も来町・来館が予定されています。作品の公開

については、後日お知らせいたします。

⇐ 橋本悦雄氏の説明 (戦時中の状況と理研工場の遺構)

おかべまさお
岡部昌生氏：札幌大谷大学短期大学部教授 フロッターージュ (擦り出しの技法) を用い、「時間とモノと人の関わりが如何にあったのか」を表現。2006 年ベネチアビエンナーレで日本館の代表作品を発表する等、国際的に活躍中の芸術家



↑ 制作中の岡部氏 (石川産「長石」の巨大結晶)

いしかわの「お宝」5

石川町指定文化財

～石川自由民権運動の
生き証人～

「資料館便り」では、町に伝えられて来た貴重な文化財や、鉱物や動植物などの天然記念物を紹介いたします。

すずきけおもてもん
「鈴木家表門」(通称「じゅうけんやしき重謙屋敷」おもてもん表門：石川町字下泉所在)



鈴木家：江戸時代に下泉村の庄屋、そして石川組の大庄屋を兼務し、当町屈指の家柄を誇った。明治時代初め、鈴木家の屋敷は磐前県いわさきけん(現在のいわき市平に県庁がおかれしました。)の支所である「石川会所」ともなった。

この「重謙屋敷」に勤務しました。河野のもとには、鈴木家当主である鈴木荘右衛門、その子重謙、石都々古和気神社神官吉田光一、川辺(玉川村)庄屋吉田正雄らが集まり、明治新政府の行政について盛んに議論し合いました。これが東日本で最も古い自由民権運動の芽生えであり、またそれが明治8年(1875)民権結社「有志会議」(後の「石陽社」)の設立へと展開していったのでした。(今年で140年になります!!)

「鈴木家表門」は文化4年(1807)に建造されました。簡素ながらも手の込んだ造作が見て取れ、鈴木家の格式の高さと共に、この屋敷に出入りした河野等の熱き思いを今に伝えています。

角田市教育委員会来館

○ 宮城県角田市教育委員長星文和氏、同教育長菊地俊彦氏等6名の方々が当町の学校教育、歴史文化の視察研修を目的に来町・来館されました。

当館では、四百年前に石川昭光が遺した文書や、町産物のペグマタイト鉱物をご覧いただき、石川町の歴史と自然を詳しくお伝えしました。両市町の友好が更に強まることを祈念しております。



↑ 石川昭光の文書を公開

角田市：昭和53年(1978)4月に本町と姉妹都市になった宮城県南部の中心都市。天正18年(1590)石川地方の戦国領主石川昭光が石川を去り、その甥にあたる伊達政宗に召し抱えられ、慶長3年(1598)に角田に一万石の地を与えられた縁による。

← ペグマタイト鉱物の説明

